



【第285号 紙面案内】

第2～4面……部会からの開催報告、お知らせ

日本伝統の技の継承—人材育成のマネジメントの重要性

日本マネジメント学会会長 加藤 茂夫（専修大学）

「豊かな歴史・文化・建築といった日本の神髄に満たされた記念碑である*****に滞在させていただいたことは大きな喜びでした。また、最高の職員の皆様と全てが適切な日本の良さに感服いたしました」とウガンダ共和国国民議会議長レベッカ・カダガが2013年10月に京都を訪問した際に述べた言葉である。2014年新年の報道番組は京都迎賓館のコンセプトを日本の固有の哲学、伝統、匠を現在に活かされていると紹介していた。不易流行？外国人の体型に合わせた2mの鴨居の高さ（通常1.73m）にするが庭を愛でる古来の伝統にしたがい鑑賞できるような工夫、天井を無垢でこぶのない40mもの長さにする努力（300年以上経過した奈良にある杉の探索）、12mの長さに及ぶ漆塗りの座卓、木目を合わせた障子等指摘されなければ分からないような小さくて大きな心配りが随所に散見される。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食は民族、宗教、文化等日本と異質の思考を持つ国々の方々に対しても器の醸し出す素敵さと相まってグローバル化している。

そして何よりもカダガが述べているように日本人の心からのおもてなしに感服したことである。おもてなしの心は利他心だけではなく、モノや機械に対しても存在する。鏡餅を機械・設備にお供えする風習から見ても分かる。おもてなしの心は人として行動すべき重要な基本的価値を形成している。このような日本固有の技術・伝統・文化をグローバル化する知恵やアイデアがいたるところに存在している。町工場から大企業まで組織のリーダーはそのアイデアをどのように実現するか、アイデアを生み出す企業風土を創り出さなければならない。上からの強制ではなく下から湧き上がるような仕組みづくりが必要であろう。そのためには「異質な考え方を結びつけるベンチャー・スピリット（創造的で進取な心を持ち、リスクに果敢に挑戦する意欲と夢・責任感・倫理観を持つ心の様相—entrepreneurship—）」を組織の参加者全員が持つことが重要となろう。それが次代を担うリーダーの育成マネジメントであり、日本マネジメント学会の使命でもある。会員諸兄と共に未来を担う学生、リーダーのキャリアアップに邁進していきたいと考えている。そのアイデアは世界の貧困層を救うBOPビジネス、ソーシャル・ビジネスへと結実することを願いつつ新たな年を迎えた。ご協力のほど宜しくお願い申し上げる次第である。

◇◇関東部会の開催報告◇◇

中村 公一（駒澤大学）

平成 25 年 12 月 14 日（土）14 時より、関東部会が駒澤大学にて開催された。参加人数は、30 名強であった。

第 1 報告は、久保田達也氏（成城大学）・積田淳史氏（武蔵野大学）による「研究者の開発活動と成果：基礎研究所を対象とした質問票調査」であった。企業に所属する研究開発者個人の志向性が、開発活動や成果にどのような影響を与えるのかということ、質問票調査から解明した報告であった。

第 2 報告は、仁平晶文氏（東京経営短期大学）による「伝統と革新をつなぐオープンな徒弟制度 — 古典芸能の世界における人材育成制度を題材にして —」であった。落語界における伝統を継承しながらもオープン化を基礎とした革新を遂行できる人材育成のあり方に関する探索的研究による報告であった。

第 3 報告は、濱田初美氏（立命館大学）による「日本のエレクトロニクス産業の再生について — マネジメント課題をいかにクリアするか —」であった。かつては日本経済を支えたエレクトロニクス産業の凋落の原因や問題を解明し、その処方箋を提示した内容であった。

それぞれの報告内容は、重要な現代的課題を取り上げており、また質疑応答も活発に行われ、とても充実した部会報告であった。部会終了後は懇親会が行われ、会員間の交流が図られた。

関東部会からのお知らせ

下記の通り平成 26 年度第 1 回関東部会を開催いたします。プログラムの詳細につきましては次回の会報および後日ホームページに掲載する予定です。ご参加の程よろしくお願いたします。

なお関東部会では随時報告者を募集しております。

1. 日 時：平成 26 年 4 月 26 日（土）14 時より（予定）
2. 場 所：立正大学
3. 問い合わせ先：関東部会長・手塚 公登（045-962-6181 tezuka@sei jo.ac.jp）

◇◇中部部会の開催報告◇◇

藤木 善夫（東海学園大学）

平成 25 年 11 月 16 日（土）14 時より、第 48 回中部部会が東海学園大学栄サテライトで 21 名の参加者を得て開催された。

第 1 報告は、石原俊之氏（扶桑町商工会）による「プレミアム商品券事業の実態について」、司会・コメンテーターは村橋剛史氏（朝日大学）であった。石原氏は、地方自治体が行うプレミアム商品券事業によってどのような経済効果が生まれるかについて統計的に分析し、実態を検証された。

第 2 報告は、藤井健太郎氏（東海学園大学大学院）による「経営理念の浸透活動 — 3 法人の事例を中心に —」、司会・コメンテーターは辻村宏和氏（中部大学）であった。藤井氏は、先行研究を踏まえ自動車運送業、食品製造会社、医療法人の 3 つの事例から経営理念の浸透とそれを推進・強化していくことの関係性について報告された。

2 件の報告後、櫻井克彦氏（東海学園大学）による「CSR 経営とその課題」の講演が行わ

れた。司会は堀田友三郎氏（東海学園大学）であった。櫻井氏は1930年代からの社会的責任論の歴史を紐解かれ、CSR経営の概念形成、企業への適用、更にはCSR経営の課題について講演された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされ、引き続き、堀田部会長を議長として次回開催校等に関する議事が審議された。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中か会員間の交流が深められた。

中部部会からのお知らせ

第49回中部部会は平成26年6月下旬に実施予定です。詳細は決まり次第連絡いたします。奮ってご参加ください。

なお中部部会事務局では、随時報告募集を行っております。報告を希望される方は藤木善夫（東海学園大学 〒470-0207 みよし市福谷町西ノ洞 21-233 TEL;0561-36-5555, fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp）までお知らせください。

◇◇関西部会の開催報告◇◇

関西部会長 佐々木 利廣（京都産業大学）

平成25年11月29日（土）13時30分から大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）において、日本マネジメント学会の平成25年度第2回関西部会が開催された。出席者は16名であった。

第一報告は、堀野巨求氏（京都産業大学大学院）「中間支援組織論の現状・課題とコレクティブ・インパクトへの動き」というタイトルの報告であった。中間支援組織に関する理論化の現状と欧米の新しい動向を踏まえながら日本のNPO支援センターが進むべき方向性を探るという意欲的報告であった。とりわけ最近注目を浴びているForces for Good（翻訳『世界を変える偉大なNPOの条件』）の議論や実践例としてのFSGによるコレクティブ・インパクトの動向は、日本の中間支援組織を考える上で参考になるという結論であった。報告後の質疑では、中間支援組織の組織としての成立条件に関する質問が多く出され、組織論的アプローチの必要性が指摘された。

第二報告は、陳恵貞氏（関西大学大学院）「情報社会における企業統治構造とその有効性の検証 ― 日台の比較研究を中心に ―」という報告であった。日本や台湾での企業不祥事の発生を背景に企業統治の不備が指摘されることが多いが、報告は日本と台湾の企業統治の構造と機能を比較しながら最近の企業統治改革の現状を評価しようとする内容であった。具体的には日本のオリンパスと大王製紙の2社、台湾の力覇（Liba）という大手財閥企業を対象に企業統治構造の比較をしながら、社外取締役の導入、内部通報制度の整備、IT統制などの強化策の有効性について検討しようとしている。質疑ではタイトルの情報社会は何を意味しているのか、企業統治構造の相違に各国の歴史的背景が大きく影響していることを考慮すべきであること、企業不祥事が発生する要因として企業統治構造以外の要因が大きく影響していること、など多くの質問が出された。

第三報告は、楨谷正人氏（摂南大学）「ダイナミック・ケイパビリティの実証的解明 ― 組織ルーティンの考察を通して ―」という報告であった。組織変革の理論枠組みとダイナミック・ケイパビリティ論を援用し、キヤノン、花王、東レの3社をケースにしながら、組織ルーティンを破棄しながら戦略的組織ルーティンを安定化させ、さらに戦略的組織ルーティンの変化を経て新しい戦略的組織ルーティンを創造していったダイナミックな過程を分析しようとした報告であった。こうしたダイナミック・ケイパビリティの形成プロセスは、トップによる組織変革の断行への言明、組織変革を具現化するための最適な組織の構築、意思決定基準の明確化、組織学習の誘発と促進というプロセスを経ることを強調している。質疑では、

コッターをはじめとする組織変革のステージモデルとの関連、3社がケースとして選択された根拠などの質問が出され予定時間を越えた熱心な議論が行われた。

今回の報告は、それぞれ中間支援組織論、企業統治論、組織ルーティン論についての報告であったが、すべて大学院生や中堅の研究者による報告であった。また具体的事例やケースをもとに理論化を試みるという日本マネジメント学会らしい報告でもあった。報告会終了後、会場近くの廣東料理店に場所を移し懇親会が行われ、会員間の相互交流が行われた。来年度の第1回関西支部会は、6月28日(土)に開催される予定である。場所は大阪NPOセンターを予定している。引き続き研究報告の希望者を募集していますので、幹事までご相談ください。

◇◇中国・九州部会からのお知らせ◇◇

中国・九州部会長 篠原 淳 (日本経済大学)

平成25年度第2回中国・九州部会を3月22日(土)に九州産業大学にて開催します。

さて、いよいよ黒田如水(官兵衛)を主人公としたNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」がはじまりました。中国・九州部会では、その黒田如水ゆかりの菓子店、株式会社如水庵 代表取締役社長 森 恍次郎 氏より部会にて特別講演をいただきます。つきましては会員皆様からの報告者を募集します。報告を希望される方は下記までご連絡下さい。

<連絡先> 篠原 淳 (日本経済大学) (shinohara@bird.ocn.ne.jp)

*かならず、お名前、ご所属、論題をお知らせください。

機関誌委員会からのお知らせ

機関誌委員長 樋口 弘夫 (和光大学)

機関誌への次回投稿の締め切りは、平成26年1月31日(金)です。なお、投稿規程、執筆要領、組見本を遵守ください。詳細は学会HPでご確認願います。

本棚～会員の新刊著書を紹介します～

・加藤浩康著『信頼されるリーダーへの道』 1,500円+税 株式会社きんざい

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もさまざまな情報を的確な時期にお届け致したいと存じます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。 会報委員会一同

発行 日本マネジメント学会
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4
株式会社山城経営研究所 (担当：魚住)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 榊ドットケイズ 〒03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp